

'68

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 485 号

1968. 12. 30 (火) 晴

例会場 鶴岡市本町2丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ② 5775

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

「参加し、敢行しよう」

10月	地区別順位 70クラブ	61位	会員数	65名	出席率	84.56%	前月順位	52位
-----	----------------	-----	-----	-----	-----	--------	------	-----

出席報告

本日の出席 会 員 数 62名
出 席 数 42名
出 席 率 67.73%

欠 席 者 阿部(襄)君、荒明君、千葉君
長谷川君、平田(貢)君、小花
君、中台君、大野君、齋藤
(栄)君、齋藤(得)君、佐藤
(伊)君、佐藤(昇)君、高橋君
黒谷君、小野寺君、谷口君、
辻君、藪田君、金野君、阿宗君

前回の出席 前回出席率 66.67%
修正出席数 48名
確定出席率 76.19%

マークアップ 大竹君一酒田東RC
安藤君、林君、五十嵐(一)君
齋藤(信)君、谷口君
一鶴岡西RC

ソング 奉仕の理想 三井(健)君

司 会 会長 石黒慶之助君

☆31日大晦日の例会日になっておりましたが1日繰り上げて実施しました。ひさごやさんの特別の御厚意で例会をさせていただいたことを厚く御礼申し上げます。

今日は一年で最も忙しい日にも拘らず多数御出席いただき厚く御礼申し上げます。

一般のクリスマスに際し、みごとな写真を張先生が撮られ1枚70円の実費でその御厚意にあまえて、申込んでもらいたい。

☆今年度最終例会で、誠に申しわけない御報告を申し上げます。

会員菅原主純君、松田東一君のお2人が退会の届けが出ております。このクラブからお2人の退会は非常にさびしい限りであります。来年度は会員推選委員会の活躍により、より優秀なロータリアンを推選していただくことをこの席からお願い申し上げます。

今年度の最終例会に多数出席していただき皆様も御健康でよい年を御迎えられますよう御願ひ申し上げます。

☆三浦君

1. 鶴岡クラブ、鶴岡西クラブとの区域の問題
2. 定款の文章の検討の提案がありました。これに対し、会長から説明もありました

会報はご家族みんなでよみましょう

が、今後の研究課題とすることにいたしました。

☆社長の給料の決め方 池内君

我々経営者として従業員の給料をきめますことは、比較的よい。それは国の統計或いは県の統計でもって従業員の給料の相場がわかります。

最近では中卒、高卒の毎年の初任給のベースも発表されますので比較的我々はそれをつかんで、それと今まで勤めている従業員の給料をからめて、常に検討しますので比較的決めやすいが自分の給料を決めることはなかなか基準がないので、どういう方法で決めたらよいかをやむのであります。

あまり自分がとれば従業員から文句はこないか、或いは株主から意見が出ないか。税務署が否認しないか、こういう問題でお互いが気になっている。

鶴岡はがいて社長の給料が安い、とみられます。かって税務署の法人係では私と話している時に、鶴岡の社長さんの給料が安い、それにもかかわらず暮らしてはそれほどつめていない、ややぜいたくな生活をしている。自分達としては、あの人の給料であれほどの生活が出来ないと思うけれども、やっているところをみればなにか疑問をもたざるを得ない。そういう所は精密に調査したいということをやっております。

丁度私には而もそれはロータリアンであるということでもあります。とにかく税務署の考えかたとしては、取るものは取って、払うものは払いなさい。これを彼等がいたいらしいそれで我々もがまんして、出来るだけ安く取っているんですが、それでは標準はどの位かまづは例ですがアメリカの一流会社の社長の給料は大体1億数千万円、2億に近い。低い方で7千5百万円位です。月にしますと、アメリカの社長は高い方で月に5千万、低い方で1千万円位。日本の社長さんの給料は100万低い方で40万円、政府企業である。

3公社、5現業の総裁は25万から40万位、それで、日本の企業体の特に鶴岡に近い中小企業あたりの給料はどの位かと申しますと、製造関係の平均で最低7万5千円から、高い所で65万円、非常に巾があります。平均で19万6千円、中小企業といわれる我々の所では15万円から40万円位の範囲にあるということ

です。

我々は鶴岡の社長さん方はそれだけ取っているかどうか。これを従業員の数で検討しますと従業員の平均賃金の倍数で出ておりますが、従業員50人以下の企業体では大体6倍、51人から100人までの所が8.1倍、100人～200人までが8.8倍、200人から500人までは10.2倍、500人以上が18.6倍、こうなりますと今間さんは10倍から取らないとかつこうがつかないと思います。大体製造業の総平均は8.5の数字がでております。

私はこれに対して従業員の平均賃金のテンパーセントに自分の従業員の数をかけるのも一つの方法である。それから社長、専務、常務、監査役、平取締役の比較ですが、社長100にした場合、専務が71%、常務が63%、取締役が45%、監査役18%、大役員間のバランスがこのようになるようです。

それから賞与問題ですが、中小企業では250万円、年間で低いところで15万円、平均90万円、月にしますと3.3ヶ月、3.5ヶ月、この位が社長の賞与の妥当でないかということですよ。

以上申し上げました数字は会社が経営が立派に出来て、償却は勿論100%とし、配当は少くとも1割以上の配当をする社長としての責任を果たしている時にいえることであって赤字を出してもらうことを考えては一寸御用心なされた方がよいと思います。むしろ給与を増やして賞与をへらした方が得のようです勿論償与を増やすことは、法人税を納めてなお利益処分においての役員賞与になりますので二重加税三重加税にもなる気がします。

自分の給料を高くとって、そうして賞与を下げた方が会社の為になります。会社本位に考えて会社の支出を出来るだけ少くし給与を上げられて、そうして自分の負担する税金を納めて法人税を納めてなお又賞与でもらって、自分の税金を納めるでなく、なるべく残った金は会社についで会社の体質改善につかう、こういうふうと考えられた方が利こうな経営者ではないかと思ひます。

献立

焼物—鮭粕漬、煮物、カレー
吸物—小田原蒲鉾、鳥、みつば